学校経営と人材育成



おまつりおじさん　　ゆめのすけ

埼玉県立熊谷特別支援学校
校長　多田　明彦

1

本日お話しする内容

1. 学校概要
2. 本校の現状と課題
3. 職員意識調査の結果
4. 危機管理事例報告
5. 今後の取組、展望

2

所在地　埼玉県熊谷市



- 「暑さ対策日本一を目指す」まち
- ラグビーが盛ん「ラグビータウン熊谷」
- 新幹線が停車、秩父への乗り換え地点
- うどん、五家宝
- かき氷店が多い「ゆきくま」

3

学区　埼玉県北部（６市８町１村）



通学方法
○スクールバス
　大型3台　中型6台　小型1台
　ワンボックスカー5台
○通学支援（訪問看護師＋介護タクシー）
○保護者による送迎
○自主通学（高等部）最寄り駅から徒歩1.5km

4

学校概要

- 昭和４２年開校
- 肢体不自由特別支援学校
- 設置学部　　小学部　中学部　高等部　訪問教育部
- 児童生徒数（内訪問）１３６名　小６３（９）　中３３（３）　高４０（５）
- 教諭等　１１７名
- 寄宿舎　３６名
  （のべ在籍児童生徒）





5

学校教育目標

・かしこく　・心豊かに　・たくましく

目指す学校像

- 児童生徒の障害特性や教育的ニーズを踏まえた最適な学びを進め、一人一人の良さや可能性を最大限に伸ばし、保護者・地域から信頼される学校

6

小学部

- 学部目標
- 学んだことを生かせる子
- 友だちとなかよくできる子
- 最後までがんばる子











7

中学部



- 学部目標
- 人の心を思いやり、自分らしく豊かに生活できる生徒
- 持てる力を発揮し、心身ともにたくましく生きる生徒



8

高等部

- 学部目標
- 進んで学習し、よく考える生徒
- 社会的経験を広げ、人との関係を豊かにできる生徒
- 健康・安全に気をつけ、ねばり強く取り組む生徒
- 自律心を持ち、適切な進路実現のため、努力する生徒



9

訪問教育部

- 学部目標（小）
- 生き生きと明るい子
- たのしく学習にとりくむ子
- こころゆたかな子

- 学部目標（高）
- のびのびと明るい生徒
- 意欲的に学習に取り組む生徒
- 心豊かな生徒

- 学部目標（中）
- 生き生きと明るい生徒
- 楽しく学習に取り組む生徒
- 心豊かな生徒





10

寄宿部









11

医療的ケア

- 教育活動の一環として、自立活動の観点を踏まえたケアを実施しています。




12

年間行事











13

体育祭









14

夢祭（文化祭）









15

支援籍学習／学校間交流

- 障害のある児童生徒が必要な学習活動を行うため、在籍する学校または学級以外に置く埼玉県独自の取組





16

センター的機能

地域の学校での巡回教育相談



特別支援学級教員対象研修



17

キャリア教育

- 高等部卒業後の豊かな生活の実現を目指し、小学部段階から取り組む。
- バディアート、ユニバーサルデザイン衣類の共同開発







18

アートで築こう地域の輪

- 学区域の企業等に児童生徒作品を貸し出し、展示してもらい、学校理解、子ども理解、共生社会推進をめざす。







19



20

本校の現状と課題

- 肢体不自由教育、自立活動の指導力向上→教材データベース
- 児童生徒個々の教育的ニーズに応じた指導・支援→学校研究
- 教員のICT活用力向上→ニーズに応じた研修
- 災害準備、災害準備教育→備品準備、避難訓練、外部研修
- 仕事のやりがい→教材研究、児童生徒の成長、特技を生かす指導

21

職員意識調査（経験４年以上）

質問項目
①本校の良さ、強みは
②ここ数年で学校が変わったところ
③前任校と比較して、気づいたところ
④本校の課題
⑤取組、教材、施設についての要望

22

●本校の良さ、強みは

- 校務のDX化推進により、効率化も進んでいると感じます。（私物の教材や個人的な持ち物も減りました）ここ数年で学校が変わったところ
- 肢体不自由以外の障害種の特別支援学校経験者が勤務しています。また、小中学校、高校の教員も、人事交流ということで勤務しており、いろいろな経験と実践を積んだ教員集団
- 自立活動専任が４名おり、各学部・ブロックに各一人ずつ配置されている。学部の教員にとって身近な存在であり、児童生徒の指導に悩んだ時などに相談しやすい
- 埼玉パナソニックワイルドナイツを中心にスポーツチームとの交流や立正大学等との教育機関との連携など、学校外での関わりを数多く構築できている。また、寄宿舎があり様々な経験を積み重ねることができる

23

ここ数年で熊特が変化したところ

- ICT技術の導入により効率よく、校内の情報共有、授業準備、会議の運営ができるようになり時間の使い方が劇的に変化した。
- 会議日程等の精選で、生徒下校後に教材作成の時間を勤務時間内から設けることができるようになった。
- ペーパーレス化
- 再調理が教室から給食室になった。
- 職員室が離れているが、会議等をリモートでおこなえるのでとても楽。HPを活用しているので会議時間が短縮した。
- 学年を超えて、類型のつながりが増えた。生活グループが類型ごとになった。学部内で応援体制を組むようになった。

24

前任校と比較して熊特の良いところ・気づき

- 各学部ごとに地域交流の行事（学校やワイルドナイツ等）があり、地域と密接な関わりがあるところ
- 会議回数が少ない分、教職員は先の見通しをもって各種案件の検討及び提案等に取り組んでいます。
- 肢体不自由校にも関わらず、２階建てなので教室数が充実している。スロープが自立活動の指導に活用できる。
- 仕事の均等までいかないが、知的より一人当たりの負担が少ない。支援プランが１～２名
- 車いすやカーシート等児童生徒の生活に欠かせないものに対する業者との情報交換、OT、PT、ST、といった医療との情報共有ができる

25

本校の課題は

- 学部間の結びつきが薄いと感じる。校内でもあまり他学部の情報が入ってこない。指導体制や方針がバラバラだと感じることがある。
- 児童生徒や保護者が学部が変わったときにギャップを感じやすいと思う。
- 全校で取り組む行事が少ない。

- 子どもからの発信力や決定する力が弱いところだと思います。どうしても誰かに何かをしてもらう（身体介助など）場面が多くなってしまってなのか「自分でどうしたいか決めてみよう」と投げかけてみると答えることができないことが多いです。自己決定や意思表示できる力が付けられる学校であると良い。

26

本校の課題は

- 若手教員及び肢体不自由特別支援に初めて赴任した教員の研修不足、自主講座等の研修機会を精選した結果、研修機会が大幅に減少してしまった。
- 職員室が学部ごとに別室になっているため、せっかくいろいろな人的資源を生かせない（タイムリーに）部分があることです。もったいない！
- 長年の汚れが蓄積している
- 泊を伴う行事において、参加の仕方の多様化と費用の高騰。

27

こんな取組や教材・施設があれば

- 自立活動室のような教室がもう一つあると自立活動の指導がより充実するのでは、、、と考える。
- 自立活動室に、大型吊り下げ遊具。
- 体育館や講堂、自立活動室以外にフリースペースや教材置き場（自活関連用具は自活室でよい）があると、学習内容によって環境を使い分けられ、生活にもメリハリができてよいように思う。
- 広い職員室があると結果的によりよい教育活動につながっていくと感じています。
- （車いすやウォーカーを置いても狭くならない）だだっ広い廊下。
- 学校全体で教材を共有できるシステムが必要だと感じる。様々な実践を基に、各児童生徒の実態に即した教材作成を作成するきっかけ作りの場があると、さらに充実した指導に繋げられるのではないかと感じる。

28

危機管理事例

熊谷特別支援学校　停電事故対応記録

発生日：11月11日

発生状況

- 9:30 全館停電発生
- 当初は地域停電と思われたが、本校のみ停電と判明
- 非常放送、固定電話、PC等が使用不能
- 原因調査を開始

最終的な原因

- 引込ケーブル断線による漏電
- 11日中の復旧は困難
- 深夜1:30頃に復旧

29

当日の対応経過

初動対応

9:30

- 東京電力、工事業者へ連絡
- 校内は管理職・事務職員が直接連絡

9:40頃

- 給食調理不能と判断
- 11:30下校の方針決定

10:20

- 企画委員会開催
- 保護者引き渡しを決定

10:48

- eメッセージ配信

11:30〜

- 引き渡し開始
- 非常用食提供

15:10

- 全児童生徒引き渡し完了

30

対応内容

安全確保のための対応

保護者引き渡し

- 体育館に引き渡し会場設営
- 駐車場誘導
- トランシーバー活用
- 学校携帯電話による個別連絡

給食対応

- 牛乳返品
- 非常用食を児童生徒へ提供
- 調理済み食材は教職員で対応
- 冷凍食品の処分

行政等との連携

- 校長会
- 特別支援教育課
- 保体課
- 財務課
- 情報システム課

との情報共有・相談を実施

31

見えた課題　良かった点

停電で機能しなくなったもの

通信

△ 非常放送設備
△ 固定電話
△ 校内ネットワーク
△ 印刷機・コピー機

生活インフラ

△ 水道
△ トイレ
△ 冷蔵庫
△ 医薬品・食材の温度管理

業務

△ 出退勤管理
△ 警備システム
△ スクールバス連絡
△ 夜間の照明確保

被害を最小限にできた要因

○ 暖かく晴天だった
○ 下校まで時間的余裕があった
○ 大きな行事日ではなかった
○ 非常用食の備蓄があった
○ 保護者の協力により引き渡しが円滑だった
○ 体調不良者なく全員の安全を確保できた
○ 関係機関・工事業者が迅速に対応した

32

教訓と今後の備え

物品整備

- 折りたたみ式トイレ
- トランシーバー増備
- 紙媒体の緊急連絡名簿
- 学校携帯電話予備機
- モバイルバッテリー
- LEDランタン

体制整備

- 停電時の連絡体制の再確認
- バス会社への連絡手順明確化
- 医薬品・食材管理のルール整理
- 夜間寄宿舎での停電対応検討
- 悪天候時・冬季の停電対応検討

まとめ

「電気が止まると、通信・給食・水道・トイレ・安全管理が同時に機能停止する」

今回の経験を、より安全で確実な危機管理体制の構築につなげる。

33

くまとくプライド宣言

●心と身体のコンディションを整え、ベストな状態で子供たちをむかえます。
→子供にとって楽しい授業は、教師自身も楽しむことが大切。そのためには、心と体の健康は不可欠であり、メリハリのある働き方改革を進めます。

●すべての人への思いやりとリスペクトを心がけます。
→何気ない気配り、ちょっとした言葉かけ、さりげない優しさを心がけ、実践します。

●スマイル、スピード、スピリッツを大切にします。
→まずは笑顔、相談・要望に対するスピード感、教育に対する情熱を大切にします。

●子供たち一人一人の「好き」を見つけて「得意」につなげます。
→目の前の子供に、とことん寄り添い、小さな変化に気づき、伸ばします。

●自分の強みを常に磨き続けます。
→一人一人が特別支援教育のスペシャリストを目指します。誰にも負けない、自分の強みを磨き続けます。

令和８年４月１日　　校長　多田　明彦

34

今後の展望

- 肢体不自由教育、自立活動の指導力向上→教材データベース
- 児童生徒個々の教育的ニーズに応じた指導・支援→学校研究
- 教員のICT活用力向上→ニーズに応じた研修
- 災害準備、災害準備教育→備品準備、避難訓練、外部研修
  停電を想定した物の準備
- 仕事のやりがい→教材研究、児童生徒の成長、特技を生かす指導
  発言しやすい雰囲気づくり
- 粗大運動できる環境整備
- 指導の系統性

35

ご視聴ありがとうございました。

36